

放牧とフリーストールを組み合わせて 労働生産性を向上

概要 Abstract

- 1) 放牧経営がフリーストールを導入することで、労働時間を2～4割、コストを1割削減できる
- 2) さらに、中牧区放牧を採用して80頭に増頭することで労働時間を削減しつつ所得を高められる



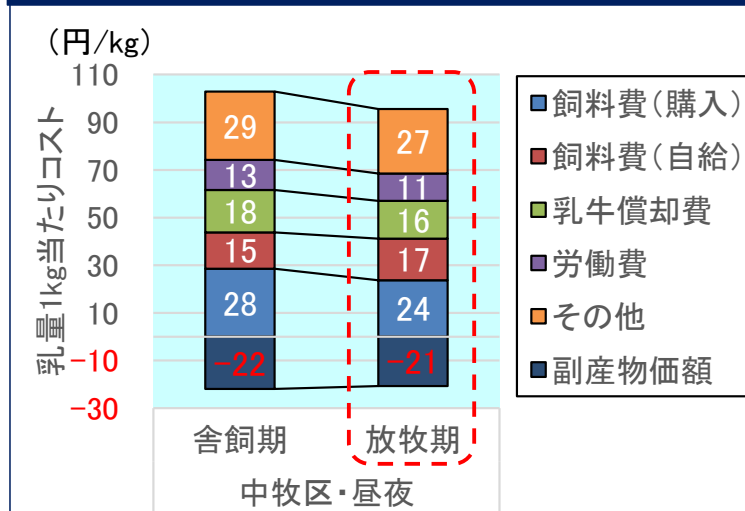
成果 Results

①フリーストール放牧のコストは繋ぎ放牧に比べて低く、中牧区方式が最も低コストである

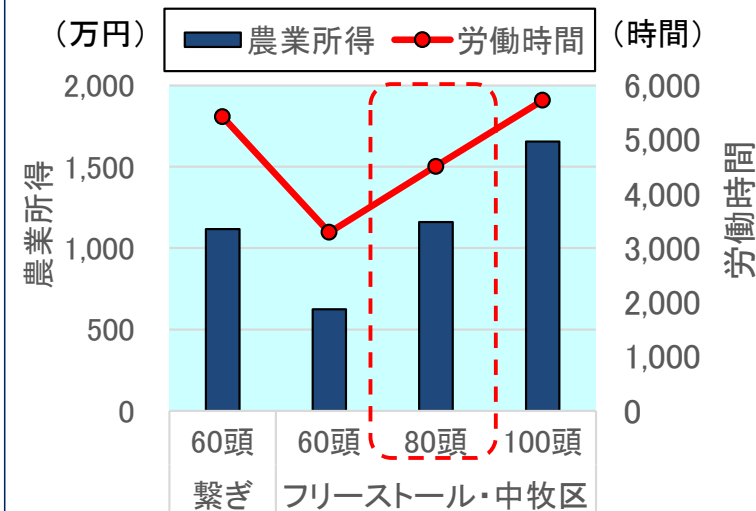
飼養方式	主な放牧方式	滞牧日数 (日)	濃厚飼料給与量 (kg/頭・日)	個体乳量 (kg/頭)	必要放牧地面積 (ha/頭)	1頭当り労働時間 (時間/頭)	乳量1kg当りコスト (円/kg)
フリーストール	定置放牧・日中	—	10.6	8,861	0.15	77	86
	中牧区・昼夜	3	8.5	7,723	0.19	54	76
	小牧区・昼夜	1	7.4	7,415	0.22	60	81
繋ぎ	輪換放牧 小牧区・日中	1	7.1	7,301	0.18	94	89

注：輪換放牧：放牧地を複数の牧区に区分して放牧する方法で、1牧区当り滞牧日数により細分化される。⇔定置放牧

②舎飼期に比べて放牧期のコストは低い



③80頭に増頭することで、労働時間を削減しつつ農業所得を高められる



普及 Dissemination

家族労働を中心とする繋ぎ飼養放牧経営が
フリーストール飼養方式を導入する際の判断に活用する。

連絡先 Contact

酪農試験場
酪農研究部 乳牛グループ
0153-72-2158
konsen-agri@hro.or.jp